

磐田市文化会館建設検討委員会（第5回）会議記録

【日時・場所】

平成28年3月28日（月）13:30~16:00
磐田市役所本庁舎4階 大会議室

【出席者】

建設検討委員会委員：青島美子、浅羽 浩、小野泰弘、佐藤典子、鈴木正善、鳥居 勤、
永井聡子、袴田茂人、平野邦孝、村上勇夫

磐田市：酒井企画部長、清水市民部長、井熊企画部理事

秘書政策課 袴田課長

文化振興課 落合課長、小澤、新貝

文化・体育施設等整備室長 金子室長

教育総務課 原

広報広聴課 大庭課長

環境デザイン研究所：斎藤、小高

1. 開会

来年度の建設検討委員会スケジュール及び議題について説明・・・事務局説明
議案1 新しい磐田市文化会館の基本理念について（見直し案）・・・事務局説明

（会長）

基本構想と基本理念、基本計画の説明をお願いします。

（事務局）

現在、検討委員会で議論をしているのは、基本構想を検討しています。基本構想には、施設の基本理念、候補地の関係をまとめていきます。

基本計画では、基本理念に基づき基本方針、敷地レイアウト、施設の規模・機能、概算事業費及び事業スケジュール等を検討します。

（会長）

27年度が基本構想を28年度が基本計画を練る年度という理解でよろしいですか。

（事務局）

平成27年度を目安に、基本構想といった大きなくりをまずはまとめ、市長に答申をしていこうと考えています。より具体的な計画内容のものとして、その構想を受けて基本計画を策定し、それを受けて、先ほど委員長が言われたような、基本設計、実施設計、といった実務的な部分に入っていこうという流れです。

（委員）

全然関係ない議論になり恐縮ですが、施設の名称は、磐田市文化会館という呼称に決定したという意味なのか、計画上、この名前を使っているということなのか、その辺り、この後に名称をどうするか作業がちょっと見えないので確認させて下さい。

（事務局）

磐田市文化会館建設検討委員会という形で去年6月に条例をかけさせていただきました。

新しい会館の名称とは思っておりません。現在の検討委員会の名称という考え方をして、こちらの当委員会で、新しい会館の名称まで議論するかというと、今、事務局の方ではそこまでは考えておりません。

会館の施設の概要などをこれからきっちりご議論いただいて進んで行こうかなと思っております。現在の会館の名前は磐田市民文化会館という名前になりますけれども、それに縛られることも、今現時点ではないと思っています。

(委員)

今後もし出てきたら「見る」という字がとても気になります。例えば、観光・観戦の「観」の方を使っていた方が、格調がちがうじゃないかと思います。

(会長)

前文中「先人たちの文化を受け継ぎ、創造し発展、発信する文化の拠点施設」は言葉が重なりすぎて多いと感じます。「文化を受け継ぎ、創造し、発信する」ということで「発展」という言葉は省略してもいいのかと思います。

特にご異論もなければそんな形で調整してみてもどうでしょうか。

(委員)

基本理念の(2)と(3)に「触れる」という言葉が両方にあるのですが、(2)は「文化芸術に」(3)は「文化芸術作品」ということで、同じ動詞を使っているのに違うので(3)の方の「作品」を取ったらと思います。「触れる」が2つあるので(3)の方を「文化芸術により」とか、そういった表現の方がいいと思います。

(会長)

同じ触れるという言葉を使いながら、片方は「文化芸術」もう1つは「文化芸術作品」としている。どちらかに統一するということですね。また、触れるという言葉の重複を避けるために何か別な言葉があればですね。

(委員)

理念の2番目と3番目は連動していて、分ける必要はないと思います。

(事務局)

理念を考える時、検討委員会での発言の中より、文化会館の役割は何かを考え、キーワード及び基本理念を6つに分類し、事務局案を提案しました。

文化会館は文化芸術の発表の場や触れる施設であり、同じような言葉が繰り返し使われることとなった。

(事務局)

補足します。基本理念は、最初に6つのキーワードを決めました。その6つのキーワードに同じような意味合いの言葉も並んでいる。触れると感動するという部分で、まとめれば1つにまとまる気がします。感動するという言葉を残せば「優れた文化芸術作品に触れ感動する」同じ言葉が重複せずにまとまるかと思います。

(委員)

3番は、3回目の議論で感覚の話が出た。感動は個々に違い、個人に対する考え方を尊重したい。

1番の「集まる」は不特定多数、2番の「触れる」は大勢の人たちに与えましょう。しかし、作品を見たら、感じ方は違い、個々の鑑賞者も大事にするものを企画しましょうとい

う意味合いにとった。違和感なく感じている。

前文は「文化芸術は」で始まった文章が、中盤以降に、「先人たちの文化を受け継ぎ」となっている。ここでも文化と芸術の意味合いの違いが少なからずあると思う。「先人たちの文化芸術を」の方がすっきり読める気がします。

(会長)

1つは、2と3を統合して、感動するの中に触れるという意味合いを込めて6つでなく5本立てのキーワードにして「優れた文化芸術に触れ感動する」という案です。

2つ目は、(1)(2)は、そこに来た人全員が共通すること、(3)は人によって受け取り方が違うということで、残した方がいいという案です。

(委員)

2番の触れる、3番の感動するも共に、いいものに触れるという意味であればまとめた方がいいのではないかと思う。

(委員)

いろいろなものに触れるという意味もあると思った時に2番の存在意義というのは出てくる。だから、逆にそういう意味でいうと2番が必要かと感じました。

3番の「優れた文化芸術作品に触れて感動する」は、あくまでそこから生まれた作品について優れているかどうか、という議論をした方がいいような気がします。「作品」は残した方がいいような気がします。

(委員)

キーワードの1、2、3と4、5、6というのが、少し対象としているものが違うという気がします。発信する主体が上と下では違う気がしている。もしかしたら1から6まで並べるといよりは、レイアウト次第でどうにかなるのかなという気もしています。

言葉の並べ方ももちろん必要だと思いますが、2番と3番をまとめる、ということも1つでしょうし、基本的には1、2、3と4、5、6というのは少し方向が違うのではないかと思います。

(委員)

2番は「文化芸術に触れる機会をつくる」にしてはどうか。後ろの方の参考のところには、そういう機会という言葉が入って、子どもたちが触れる機会がある。こうすれば2と3が区別がつけやすいのでは……。

(委員)

1番から6番まで1文で読めると思う。「集まる」は磐田市文化会館は誰でも行ける。何かやっていて、いろいろ文化芸術に触れることができます。見ると、きっと何か自分の心に感動するものを得られる。そういうことを文化会館は育てるためにあります。そしてその文化を今以上に創造、発展させていくのが私たち、現代の私たちの役目です。ということを実内外に発信していきましょう。というように1文で読める。

個々の議論が活かされている6つのキーワードになっている、というふうに解釈しました。

(会長)

お聞きするとなるほどだと思います。3のところは「作品」を取り「優れた文化芸術により感動する」として、6本立てということではいかがですか。

(委員)

私もとらない方がいいと思います。6本立ての方がいいと思います。色々集めて、その中でいいものは感動すると思います。

(会長)

1、2、3は、集まってこられる鑑賞者のことで、4、5、6は、なにかこう作って発信していくようなイメージでしょうか。基本構想に示すときに体裁を考えるというご提案でした。

それと、前文の5行目の「先人たちの文化を受け継ぎ」の「文化」の後に「芸術」を入れたらどうかという提案ですが、この後にも「文化の拠点施設」という言葉がありますが、「芸術」をつけるかどうかですか。意味としては含んでいます。

(委員)

「文化芸術に触れ、先人たちの芸術文化を受け継ぎ」としてはどうか。

(委員)

ここは、「文化芸術に触れ、先人たちの文化を」でいいかと思います。「創造し、発信する文化の拠点施設」またここに文化が出てくるので少し見直した方がいいかと思う。

(会長)

時間をかけてご意見を頂戴しました。このまま今日のところはおいておきたいと思えます。次回、事務局に調整をゆだねます。

次回、また再度点検していただくということで、この形で6本立てで止めたということにしたいと思えます。

(会長)

続きまして、議事の2の磐田市文化会館の建設候補地について、建設候補地の絞り込みについて進めます。今回は会議前に候補地を見学しまして、皆さんの印象等をお話いただきました。

途中で退席された委員もいましたので、事務局で前回の委員会で出た主な発言を整理していただきましたので紹介をお願いします。

議案2 磐田市文化会館建設候補地について(前回発言の確認)・・・事務局説明

(会長)

市民の代表ということで、十分、多面的、多角的に議論、協議して、より深まりのある議論をして、市長へ答申するという大変重い責務を負っています。

前回、みなさんからの意見を伺い、課題があるけれども、アミューズ豊田の良さがどういところにあるのか、また課題はどういところにあるか、議論を焦点化し、深めて行ったらどうかと思います。

(委員)

アミューズ豊田周辺は、文化ゾーンを構成できる地域だと思います。その意味で新しい磐田の文化芸術の1つ拠点になると思います。

対抗馬としては、現在の市民会館の跡地だろうと理解をしています。

(委員)

私の周りでは、建て直しという意見もあります。これは、慣れ親しんだ場所ということ

もあると思います。

もう1つは、学生の動員が大変しやすく、中学生、高校生たちが集り鑑賞会を持つとか、自分達の発表をするという機会が非常に今まで多かったので、それに対する思い入れが当然あるのは当たり前だろうと思います。

しかし、アミューズ豊田を見学しました時、発展的な意味では、とても可能性を持っている。しかし、今度は、学生さん達の活動の場として問題も残る。それから、豊田町駅から会館への交通の便をどうするのかということも、併せて考えていかないと、十分な利用ができなくなるのではないかと心配もある。

あそこは文化施設として、素晴らしい可能性を持っていて、もっともっと大きくなっていくだろうなということに対しての楽しみは十分あると思います。

(会長)

これまでのご発言では、現在地は市の中心です。なかなか魅力的な場所で、中高校生が自分の力でアクセスできるという点で、今の場所はいいいけれども、アミューズの方は手当てが必要かと思えます。

(委員)

アミューズ豊田の周辺は建設場所として非常にいい。その理由として、まず土地がたくさんあってスペースがある。大きな建物を作る時に、何と言ってもスペース、車で交通の利便性ってというのは、すごく市民が要求している。そういう点であそこは駐車場のスペースがあり、非常にいいと思えます。

また、文化ゾーンとして、いろいろな面でこれから発展性がある。今の市民文化会館の場所も、確かに磐田市の中心としていいですが、もっといろいろな面で発展的に使う時に、ある程度制限されると思えます。文化ゾーンとしての多面的な発展性を考えたら、アミューズが適していると思えます。

それと、小中高校生、確かに今、市民文化会館を便利に使います。小中高生だけでなく、一般の市民の人も文化会館を利用するとなる。その人たちのことを考えると、アミューズ豊田でも悪くはないと思えます。あの周辺は、本当に文化ゾーンとして利用できる土地だと思えます。

(委員)

見学に行った時に思いましたが、アミューズの南側の東西道路はいらぬような気がします。私もアミューズにはよく行くのですが当然車です。ゾーンということでは、やはり道は障壁になる印象があります。

(委員)

仮に、市民文化会館の跡地は、賑わいの核になる新しいまちづくりの構想の場所だと思えます。市では、跡地を売り払うつもりはないようです。新しい行政の核になるような、施設を考えてもいいと思えます。

(委員)

現在の文化会館は非常に魅力的ですが、駐車場の問題があり、どうしようもないというのが正直なところです。

今のところ、跡地活用は確かにあるとは思えます。文化会館は駐車場がやはり必要だということは考えないといけません。

(会長)

現在地はなかなか捨てがたい魅力があり、アミューズは中高校生に対する手当てが欲し

いかということがありました。

事務局から市民文化会館がどの程度、中高生が使っているか、大ホールの3年間分調べていただきました。中高校生の利用は毎年、約3割です。月によって違いますが、予想以上に多く、何らかの手立てが必要かと思いました。

使用目的は中学校の合唱コンクール、高校生の芸術鑑賞教室等を現地集合で、お芝居や優れた音楽を鑑賞します。

(委員)

駐車場その他の条件を考えると、アミューズ豊田に軍配があがりそうかなと思っていたのですが、移った場合に、学生たちの活動がかなり減ることになりますか。

(会長)

減るかどうかは推測ですが、アクセスが困難になります。

駐車場が確保できるという点では、本当にアミューズ豊田はいい場所です。反面、18歳以下の若者が自力でアクセスがなかなかできないことが課題ということで、どのような工夫ができるかです。答申では、アミューズに決定した場合であっても、このような課題が残るということは伝えなければなりません。

(事務局)

新たな文化会館を建設するにあたって、市としてあげた大きな課題の1つは駐車場の問題であることに間違いありません。しかし、1回目の会議でも触れましたように、進める過程で心配しているのが空白期間の問題です。現文化会館の設備の老朽化の度合いを踏まえ、できるだけ早く進めていければと思います。スピーディーに進めることで、現在の文化会館閉鎖後、2～3年間にも及ぶ空白期間だけは作りたくないという思いは持っています。

今の段階で、具体的な中高校生の解決案は持ち合わせていません。そういう意味で、会長が言われたとおり、行政的な施策でカバーできることはできるだけカバーしていきたい思いはあります。

(委員)

市民会館を2～3年も閉じてしまうのはきついと思います。それと同時に、現会館をできるだけ手当をしながら、新しい市民会館へバトンを渡すことも十分考えていかないといけない。現市民会館が、あとどの程度使用が可能か、実際利用しますので、みなさんにご苦労をかけることになるという思いもあります。

本当に事故がない様に、どんなに苦労しているかということを考えると、早く市民会館をつくってあげたいという思いもあります。そういうことを考えながらも、文化の火を2～3年間も閉ざしてはいけないと思いました。

小さくても、点火し続けて、次へバトンを渡すっていうためには、第一候補へ移らざるを得ないのかな、という思いと、やはり今の市民会館の跡地に何とかならないかな、という思いは十分持っております。

(委員)

基本的には、費用と地盤は大きいので、それは外せないと思います。もちろんそれだけではなく、1番の目標があるはずで。要するに、使えないからだめだとか、困るとか、文句が出るようなことをやるのではなくて、何のためにこのホールを作るのかということとをさんざん議論してきたと思います。

(会長)

もう一度、私たちがどういう課題を解決しようとしているか整理し直しもよろしいでしょうか。

(委員)

諮問を受け答申する。委員会の中でどういう議論をし、候補地案の中で一番推す意見がどこになり、懸念事項をしっかりと挙げてまとめていくことかと思います。

(事務局)

次回、建設検討委員会の目的及び、建設場所、敷地に求められる条件等について再度確認をお願いします。

(会長)

ありがとうございました。これまでの議論を一度整理していただき、市長への答申をどのように申し上げるかということで、次回もう一度ご議論をするということによろしいでしょうか。

お疲れ様でした。事務局にお願い致します。

事務連絡、次回の日程を確認して会議終了